

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	伝熱工学 I
科目基礎情報					
科目番号	0117		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	機械工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	見える伝熱工学 (小川邦康, コロナ社, 2011,10) を教科書として用いる。また適宜プリントを配布する。				
担当教員	山本 高久				
到達目標					
<p>本授業では熱伝導, 対流熱伝達, 放射伝熱の伝熱の三形態の基本法則を理解し, 単純な系における伝熱現象の評価・計算方法を学習する。その上で熱移動を伴う実際の機器等の設計に要する知識ならびに評価・計算能力の修得を目的としている。</p> <p>① 熱伝導現象の基本法則を説明できる能力。  ② 対流熱伝達現象の基本法則を理解し, 取り扱う能力。  ③ 熱伝導と熱伝達が組合わさる熱通過現象を取り扱う能力。  ④ 無次元数の概念を理解し, 無次元数で表された伝熱関連の書式を利用する能力。  ⑤ 放射伝熱の基本法則を理解し, 簡単な放射現象を解析する能力。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	熱伝導現象に関する問題を80%以上解答することができる。	熱伝導現象に関する問題を60%以上解答することができる。	熱伝導現象に関する問題を解答することができない。		
評価項目2	対流熱伝達現象に関する問題を80%以上解答することができる。	対流熱伝達現象に関する問題を60%以上解答することができる。	対流熱伝達現象に関する問題を解答することができない。		
評価項目3	熱通過現象の取り扱い方法を理解し, 熱通過現象に関する問題を80%以上解答することができる。	熱通過現象の取り扱い方法を理解し, 熱通過現象に関する問題を60%以上解答することができる。	熱通過現象の取り扱い方法を理解し, 熱通過現象に関する問題を解答することができない。		
評価項目4	無次元数を理解し, 無次元数に関する問題を80%程度解答することができる。	無次元数を理解し, 無次元数に関する問題を60%程度解答することができる。	無次元数を理解し, 無次元数に関する問題を解答することができない。		
評価項目5	放射伝熱の基本法則を理解し, 放射伝熱に関する問題を80%程度解答することができる。	放射伝熱の基本法則を理解し, 放射伝熱に関する問題を60%程度解答することができる。	放射伝熱の基本法則を理解し, 放射伝熱に関する問題を解答することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要					
授業の進め方・方法	本授業は教科書をおよび板書を中心に行う。必ずノートをとるように。また, 理解を促進するために演習等を行うので必ず自分の力で解くこと。本授業で取り扱う内容は応用物理 (第3学年) ならびに熱力学I (第4学年) と深く関連しているため, 事前に復習しておくこと。				
注意点					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	伝熱の基礎事項 熱移動の三形態と熱流速		
		2週	熱伝導 1 フーリエの法則と熱伝導率		
		3週	熱伝導 2 平板・円管の熱伝導		
		4週	熱伝導 3 内部発熱を伴う熱伝導		
		5週	熱通過 1 ニュートンの冷却法則と熱伝達率, 熱通過率		
		6週	熱通過 2 平板, 円管の熱通過と熱抵抗		
		7週	熱伝導および熱通過に関する演習		
	8週	中間試験			
	2ndQ	9週	対流熱伝達 1 対流熱伝達現象の分類と熱伝脱率の定義		
		10週	対流熱伝達 2 対流熱伝達に関する各種無次元数		
		11週	対流熱伝達 3 対流熱伝達の整理式		
		12週	相変化を伴う熱伝達 沸騰熱伝達現象		
		13週	放射伝熱 1 放射伝熱の基本法則		
		14週	放射伝熱 2 平行な二平面間の放射伝熱現象		
		15週	期末試験		
16週		総括			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	小テスト・課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
得点		80	20	100	